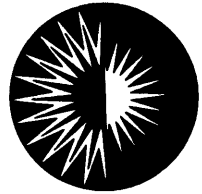




1983年1月 No.16

技術開発ニュース



限りある資源を大切に

研究紹介

- 配電線故障操作訓練用シミュレータの開発… 2
 <配電線保守の効率化>
- 送電用新型コンクリートポールの開発… 3
 <送電線工事の建設費低減>
- 降雨汚れ自動採取器の開発… 4
 <発電所周辺環境調査の自動化>
- 送電鉄塔高張力ボルト折損原因調査… 5
 <送電設備の信頼性向上>
- 半湿式電気集じん技術の石炭火力パイロット
 試験… 6
 <火力発電所高性能集じん技術の開発>

- 港内波高分布の予測手法に関する研究… 7
 <発電所港湾施設設計の効率化>
- カキ殻粉碎機の開発… 8
 <養殖における貝殻処理の合理化>
- 放射性ストロンチウムの迅速分離法の開発… 9
 <放射性物質の測定の迅速化>
- 新しい電力系統の過渡現象解析法
 (E. M. T. P 法) ……10

内外ニュース

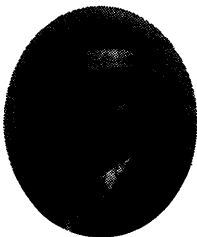
- 燃料電池発電システムの最近の動向… 12

設備紹介

- ガスクロマトグラフ (ガス成分分析装置)
 の活用状況… 14

正倉院展に思う

取締役 原子力担当 湯川 護



昨年、秋、奈良国立博物館で開かれた正倉院展を観に行った。展示物の数は約百点余、秘宝の精髓が公開されており、昨今の歴史ブームもあってか、館外の長蛇の列や、館内の熱気は、その関心の高さを表わしていた。

宝物は聖武帝、光明皇后ないしはそれに連なる藤原氏一族の日常生活や宮廷寺院の諸儀礼に使用された品物の中核をなしていると言われる。その種類も書跡、経典をはじめ、天平時代の大仏開眼会に用いた仏具、楽器、調度品類、また武器、飲食器、遊戯具や香薬の類など、各分野にわたっている。そして、これらはいづれも1200年もの長い年月を、今日まで伝世せられたのであり、それを目の前に観るとき、一種の興奮を覚えさせると同時に、当時の貴族生活の華麗さを彷彿とさせる。

特に紫檀の碁局と四絃の琵琶が、私にとって印象的であった。碁局の白線は象牙、側面の装飾は花鳥禽獣などの木象嵌、琵琶の胴も紫檀で作られており、胴全面に施された精緻華麗な花鳥の木象嵌や、唐代絵画の伝統を伝える表板の狩猟の図等、細工のすばらしさと、豪華な雰囲気は、観る人の心を奪うに十分だった。

今さらながら当時の文化水準の高さに驚くとともに、これらの業をなしとげた古代の人々の智慧と、技術の確かさは驚嘆に値する。

しかし人々は、おそらく、さまざまな失敗を繰り返した揚句、長い経験に裏打ちされた、独創的な技法を開発して、新しい素材の使用を可能にし、心をこめて、これらの物を完成し、現代に伝えたのだと思う。

単に適当な材料の入手や、物を作るテクノロジーの持合せだけではなかった。そこには技術者としての、創造することに対する、誇りと、生き甲斐と、満足感に支えられた、尽きることのない、人間の探究する心と、科学する心の持合せがあったに違いないと考えたい。

正倉院宝物の伝える歴史は、私達に、いろいろの事を物語ってくれるが、それは同時に、創造する者の心をも、教え、物語ってくれているのだと思われるのである。

そして、このような心が、技術を支え、技術の発展につながるのではなからうか。